



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0021
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第280号

AOS北九州港研修会 「船員さんに感謝～船員さんを訪ねよう」

日本は島国です。北九州地域には若松港から苅田港まで、たくさんの港があります。そして、ほとんどの港に外国船が入港しています。私たちの日常生活に必要な物資の90%は船の輸送に頼っています。石油を運ぶタンカーや自動車運搬船も日本の港に頻繁に出入りしていることは皆さんもご存知でしょう。

ところが最近では船員の人件費の関係で、日本の船であっても輸送船の船員は幹部船員以外は外国人であることが多いのです。その上漁船の乗組員も外国人を雇用していることがあります。下関市では自治体を受け入れ母体となって外国人研修生を漁船に乗せています。

外国航路の船に乗ると一年近く帰郷することがありません。国内航路でも何ヶ月も帰れないことが多いのです。

難民移住移動者委員会の中に移動者である船員の司牧を活動としているAOS (Apostleship Of the Sea)という団体があります。AOSで活動している人たちは、港に入る船員さんを尋ねて様々な奉仕活動をしています。

この活動は全世界で展開されていますが、日本でも各地で活動が行われています。現在、九州地域でAOSの活動をしているのは、パリミッション会のレヌー神

父だけです。八幡の本部から若松や小倉の港に出かけて行き船員の司牧をされています。

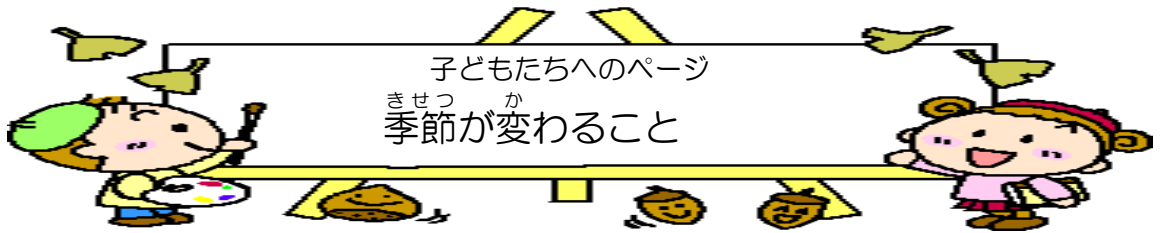
難民移住移動者では全国各地で研修会を開いて、この活動に参加してくれる人を増やそうと努力していますが、今年は10月3日に北九州で研修会を開催することになりました。

この研修会は全国で活動している人たちが集まり、経験を分かち合ったり港の見学に行ったりするのですが、今回の北九州ではこの活動を多くの人に知ってもらうために、10月3日午後一時から小倉教会の会議室で講演会を行います。

今回は講演会ではレヌー神父の話を中心に行われます。ぜひ参加して話を聞いてみてはいかがでしょうか。

広報 岩本

| | |
|----------------|----|
| 子どもたちへのページ | 2面 |
| 今モーセの十戒を読み直す | 3面 |
| 委員会報告 | 4面 |
| 典礼委員会議事録 | 5面 |
| 公文書シリーズ(11) | 6面 |
| 聖書への案内・短歌 | 7面 |
| おしらせ・小グループ紹介・本 | 8面 |



子どもたちへのページ
季節が変わること

今年の夏はいつもの年より暑かったですね。昔から日本では「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があります。寒さは春分の日までで、それからは暖かくなり、暑さは秋分の日までで、それからは涼しくなるということです。

秋分の日は9月23日です。この日から太陽が出ている時間が夜より短くなります。

秋にできる食べ物は何かありますか。お米は秋にできますね。田んぼでは稲刈りがあります。柿やなしや栗などの果物もたくさん店に並びます。

私たちの国は一年が春夏秋冬の四季に分かれていますよね。しかし、世界では日本のように季節がはっきりしている国は少ないのです。

南の国では短くて少し気温が下がる冬以外は夏という国もあります。それ以外に、雨が降る季節(雨季)と雨が降らない季節(乾季)の二つに分かれている国もたくさんあります。

イエス様の国はどうでしょうか。寒い冬も花盛りの春もあります。暑い夏もあ

ります。紅葉がある秋もあります。しかし、この国には乾季と雨季があります。

春の終わりに降る雨を「春の雨」、秋の初めに降る雨を「秋の雨」と呼びます。春の雨から秋の雨まで、あまり雨が降りません。この雨のことについては申命記11章14節に書いてありますので読んでみてください。

このような国では水をととても大切に使います。例えば、花壇の植木やナツメヤシの木の下には穴が開いたホースが引いてあって、時々水が流れるようになっています。水はホースの穴から木や花が枯れない分しか流さないようにしています。

水が少ない国ではどんな水でも大切です。無駄に水道の水を流したりしません。砂漠の国では水は命を守るものなのです。だから雨が降ることは神様からのお恵みだと考えるのです。

みんなは水道の水がいくらでもあると思って使っていませんか。一年中雨が降る日本では考えられないことです。

「今、モーセの十戒を読み直す」No.5

第一戒

(十戒を)数えるときに、カトリックとプロテスタントでは数え方が違うんですね。プロテスタントは第一戒を、1と2に分けています。カトリックは二つを合わせて第一戒としています。

「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」・・唯一の神様を信じなさいが前半部分。「あなたはいかなる像も造ってはならない」、そしてそれらに仕えてはならないというのが後半の部分です。

これは当たり前前といえば当たり前です。ピラミッド・システムの神々を信じてはならない、唯一の解放者である私を信じなさいということが第一戒の前半の意味です。

後半の意味は何か。プロテスタントの人たちには「カトリックはマリア像を使ったりヨセフ像を使ったり、十字架にイエス像をつけたりしている。あれは偶像礼拝だ」と、よく悪口を言われますけれど、そんなレベルの話ではないのが、このモーセの十戒の意味です。

当時、巨大な建築物やピラミッド、神殿、像、そういったものが民を支配するための道具に使われていました。盛大な祭典を行って民衆を圧倒した訳です。その中で来世信仰を教えていた。だから、そういう、人々を圧迫したり支配したりするために使われていた巨大な神殿や像、絢爛豪華な祭典、そういったものをやってはいけない、造るなという意味で理解すればいいかと思います。

第一戒を整理し直しますと、苦しみの原因は何だったか、民の叫びは何だったか。

さいたま教区長 谷 大二司教
偽りの神々への信仰が王に権威を与え、神々の教えはファラオによって語られた。

巨大な神殿、像を建設させ荘厳な祭典を行い、民に恐れと圧倒的な威圧感を与えた。それらは死後の世界を見せつけようとするものでもあった訳です。

神々への信仰がファラオへの服従になっていった。奴隷状態に陥っていた。そういう状況から第一戒は結局、唯一の神、解放者である神を信じなさいと、私が解放するんだ、その私について来いという意味です。いかなる像、巨大な神殿も造ってはならないと、それから二度と神々を拜んではならないと。出エジプトでは、モーセの十戒のあともいろんな神々を拜んだりしますけれども…。第一戒はそういう意味として

理解できると思います。

この第一戒をイエスはどういう風にご自身でお示しになったか。イエス様は解放者である主というのをお示しになっています。

ルカ4章(18-19節)は「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために。

主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人には解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」と述べます。イエス様も解放者としてのご自身を啓示なさったのです。

(次号へ続く)



委員会等報告

2010年9月分

9月度小教区委員会

9月5日

1、行事報告

- ・ 7月24日(土)教会学校(小学生)。今村教会訪問、巡礼。20数名の参加。
- ・ 8月8日(日)平和の集い。小倉教会にて。当教会の参加は26名。
- ・ 8月15日(日)～16(月)中高生及び青年。天草巡礼の旅。19名の参加。
- ・ 8月29日(日)聖堂及び信徒会館、周辺の大掃除。駐車場の掃除は幼稚園の方がした。

2、前委員会の議事確認

①維持費納入袋

仕様内容の検討。9月12(日)までにお知らせをして、19日より運用開始。

②資源ごみの分別廃棄容器

燃えるごみ用一つ購入。信徒会館裏に設置。

③泥拭きマット

8月29日(日)設置済み。

④信徒名簿

小教区委員の方への配布完了。

⑤2階聖堂横水道の件について

見積もりをとった。司祭館の水回りもあたることにした。

3、議題

①敬老会

- ・ 9月12日(日)ミサ後、信徒会館にて。参加予定25名。朝会場準備をする。
- ・ 記念品、ふくれ饅頭を配る。

②北九州地区レクリエーション大会

- ・ 9月23日(木)弁当を頼む。参加者募る。

4、各委員会から

- ・ 9月12日(日)第3回北九州信徒協主催聖書講座がある。
- ・ 9月20日(月)カテドラルにて教区全体の信徒使徒職協議会の研修会。
テーマ：「教会に明日はあるか」
- ・ 典礼委員会より
10月10日(日)14:00～17:00。黙想の家で祈り語りあう集い。
- ・ 11月23日(火)北九州地区信徒典礼研修会。新田原教会にて。
宮原司教を迎えて。
テーマ：「ともに喜びをもって、ともに手をたずさえて」

5、これからの主な予定

○10月22日(金)ホームレス支援炊出し

○10月31日(日)大人の日曜学校。

講師：竹森神父

○11月3日(水)召命の集い

○11月23日(火)水巻小教区、安心院巡礼日帰り旅行。40名以上の参加募集。

大型バスを借りる。トラピスト男子修道院訪問。

参加費：大人1500円位を予定。

6、その他

○侍者の子どもが少ないのでは、と意見が出た。

教会学校がない日はなかなか来ない。若い指導者を立ててはどうか。検討していく。

2010年度 第5回 典礼委員会議事録

開催日時：2010年9月8日(水) 19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、俵、松尾、山本、安永、矢田

《報告事項》

- 1 「平和の集い」で霊的花束を奉納
平和のための祈り(7/25・8/1・8/8分合計) 153回
ミサ参加と聖体拝領(8/1・8/8合計) 233人 ロザリオ(8/1・8/8ほか合計) 99連
- 2 北九州信徒協典礼部会 8月22日(日) 14:30 小倉教会
「平和の集い」の反省 研修会の仔細について協議
- 3 北九州地区信徒協典礼研修会
日時：11月23日(祭日) 10:00~16:00
場所：カトリック新田原教会聖堂 講師：宮原司教
テーマ：{ともに喜びをもって、ともに手をたずさえて}
次回典礼部会 10月3日(日) 14:30 小倉教会 役割分担について
- 4 典礼委員交代とミサ司会担当表
豊岡舞さんと窪田将也さん学校の都合で司会を辞意 浜口学さんは10月より参加の予定
《審議事項》
 - 1 小教区としての「平和の集い」の反省
夏休み中の行事であるが、こども達が平和に取り組むことは大事。年間計画に入れて、かかわり方を検討。子どもプログラムの内容を事前に知らせる。
 - 2 第3回 黙想の家で祈り語りあう集い 10月10日(日) 14:00~17:00
講師：染野治雄神父 テーマ：社会の中でのわたしの生き方(前回と同じ)
参加締め切り：9月末 対象：身近な未信者 信徒
参加費：一般信徒の参加者から入館料300円を頂く。
受付、会場準備については、次回委員会で分担
 - 3 10月の聖歌予定表了承
 - 4 クリスマス前夜祭導入部に青年の主張(宗友和氏の提案)次回手直し。
前夜祭パンフレットは、原則そのまま使うが不足分を補い、追加は挿入する
 - 5 フルート演奏を依頼
 - 6 その他
 - ・葬儀での「出棺の歌」は遺族最後のお別れから歌い始め、参列者は先に庭に出て棺を迎える。
 - ・召命を祈る会9/16(木) 聖体奉仕者研修会 9/26(日)
 - ・10/17(日) 11:30より結婚式ミサ(新郎・新婦ともに信徒)

公文書シリーズ 第11回 現代世界憲章(2)

前回にも書いたのですが、現代世界憲章の意義は、バチカン公会議そのものが現代における教会の考え方の刷新を意味しているにもかかわらず、なお「現代らしい」問題が存在し、それに対処することが必要ということと認識されます。ここでは、一端、キリスト教用語を離れた「人格」、「良心」などの用語を掲げ、十分な意味を定義し、後にそれらに神が関わることについて、融合させてゆく、という文脈がしばしば見出されます。

前回は、この憲章、全体をあっさりとした紹介したのですが、今回および、それ以降は、特に大切と思われるところだけを、数か所、紹介することにします。

第1部(教会と人間の召命)の第1章、人格の尊厳、その総論については前回も触れましたが、「人間が神の像として作られたものであるから、人格が尊厳されるべきである」ということでした。

同じこの章で、今回は、「良心の尊厳」と「自由の尊厳」の項目を紹介しましょう。ここでは、次のように書かれています。「人間は良心の奥底に『法』を見出す。この法は、人間が自らに課したのではなく、人間が従わなければならないものである。この『法』の声は、常に善を愛して行い、悪を避けるよう勧め、必要に際しては、「これを行え、あれを避けよ」と心の耳に告げる。人間は心の中に神から刻まれた『法』を持っており、それに従うことが人間の尊厳であり、また人間はそれによって裁かれる。」

すなわち、ほとんどのキリスト教関係の文章では、通常、神の決めた善悪のみが登場するのですが、この公文書で初めて「人間の良心」、すなわち人間の自発的な善悪の判断基準が登場します。ただし、やはり、ここでは道徳の教科書とは異なり、これに終始せず、これが『心の中の神に刻まれた法』であることが語られ、自分の持っている良心によって自分は裁かれる、という透徹した作用が論述されています。

さらに第1部、第4章、現代世界における教会の任務、から、重要な部分を抜粋します。「現代人は自分の人格をいっそう完全に発展させ、自分の権利をより多く発見し主張することを目指して進んでいる。人間の究極目的である神の秘儀を現すことを託された教会は、同時に人間存在の意義、すなわち、人間についての奥深い真理を明らかにする。教会は、地上の糧によって決して十分に満足できない、人間の心の深い欲求に、自分が仕える神だけが、答えることを知っている・・・。」

ここでも、通常の間人学と宗教の交差が見られます。これらは、他の公文書では見られなかったもので、通常の間(例えばキリスト教信徒ではない人も有する)人間価値を認め、それをキリスト教から見たらどのようなものなのか、という視点を与えるものです。

聖書への案内 No.14 エズラ記

ユダヤ教は「エズラ」から始まったと言われます。

書かれたのは紀元前 250 年頃と言われ、次のネヘミヤ記と同じ書でしたが後に二つに分けられました。

エズラ記には、帰還後のユダヤ人信仰共同体が、どのように神殿を再建し、祭儀を回復し、宗教の純粋性を守るために律法に基づく改革を断行したかが書かれています。

前半 1 章から 6 章は、バビロニアから帰還した人々が神殿を再建する話です。神殿の再建に関してペルシャ王の許可を得ていながら、その地に住む支配者たちの妨害があって建設が中断しながらも完成させます。

後半 7 章から 10 章は、多くの人たちより送れて帰還したエズラが、すでに帰還しユダの地に住んでいた人たちの中に、ユダ族以外との結婚が進んでいることへの非難したことと、婚姻の解消が書かれています。そして律法を正しく守るように指導します。

折尾地区

西山寿美枝さんの短歌

温暖化蟬にも異変起こりおり

北え北えと住み家をかゆる

窓下の秋草刈られ虫達は

行き場なくせりいずこに鳴かん

コスモスの揺るる根元にコオロギの

無防備のまま石超えてとぶ

蜘蛛の巣に枯葉のかかり揺れており

五色の蜘蛛はでんとかまえて

やわらかな陽につつまれしドングリを

拾い集める掌につやつやと

秋の陽を吸いしドングリ丸丸と

手に暖かししばしにぎりぬ

ホームでの運動会は万国旗

知らない国のはためきならば

10月のおしらせ

★第3回黙想の家で祈り語りあう集い★

日時：10月10日(日)14:00~17:00

場所：カトリック福岡黙想の家

講師：染野治雄神父

テーマ：社会の中での私の生き方

参加費：300円(入館料)

人-ひと

【転入】ようこそ、水巻教会へ！

◇ 樽角 務さん
芦屋地区へ

◇ 尾上 あき子さん
折尾地区へ

★ホームレス支援の炊き出し★

日時：10月22日(金)10時より

場所：水巻教会

皆さんのご協力をよろしくお願いします。

【帰天】安らかに！

◇ 9月2日
池尻 實さん(高須・青葉地区)

★大人の日曜学校★

日時：10月31日(日)ミサ後

講師：竹森神父

内容：今回は竹森神父様の講話です。

【結婚】末永く、お幸せに！

◇ 10月17日午前11時30分より
樽角 務さん(芦屋地区)
山口 司さん(海老津地区)
彼らのためにお祈りしましょう。

女子パウロ会より本の紹介

「過ぎ行く人たち」

高橋 たか子 著

心の奥の、遥かな呼び声に促され、偶然か、
神の摂理か、不思議な出会いを重ね重ねて
人は行く、過ぎ行くー いずこから、いずこへ？

小グループ紹介シリーズ

セシリア会

セシリア会は、毎週のミサでオルガンを弾いているグループです。

今の聖堂になってから、機能がいろいろついているオルガンになり、音色も前のオルガンと比べると、とてもよくなりました。ミサの中で、神様への賛美の歌を、信者の皆さんの歌声に合わせて弾いています。

グループとは言っても、メンバーは3名と少なく、人手不足でいつも困っています。

ピアノ、オルガン、エレクトーンを習ったことのある方もない方も、オルガンを弾くのに興味のある方は、是非セシリア会に声をかけてください。一人でもメンバーが増えることを願っています。